

## 秋冬期におけるスターチス・シヌアータの切り花増産のための フラスコ苗低温処理の利用と冷房育苗温度

古屋 拳幸\*・藤岡 唯志\*\*

和歌山県農林水産総合技術センター農業試験場暖地園芸センター 644-0024 御坊市塩屋町南塩屋

\*現：和歌山県農林水産総合技術センター果樹試験場うめ研究所 645-0021 和歌山県日高郡みなべ町東本庄

\*\*現：和歌山県農林水産総合技術センター農業試験場 640-0423 紀の川市貴志川町高尾

Low Temperature Treatments of the In-vitro Plants and Air Cooled Raising Seedling Temperature for  
Increased Cut Flower Production of  
Statice (*Limonium sinuatum* Mill.) at Fall-Winter season

Takayuki Furuya\* and Tadashi Fujioka\*\*

Horticultural Experiment Center, Agricultural Experiment Station, Wakayama Research Center of  
Agriculture, Forestry and Fisheries, Gobo, Wakayama 644-0024

\*Present address : Japanese Apricot Laboratory, Fruit Tree Experiment Station, Wakayama Research Center of  
Agriculture, Forestry and Fisheries, Minabe, Wakayama 645-0021

\*\*Present address : Agricultural Experiment Station, Wakayama Research Center of Agriculture, Forestry and  
Fisheries, Kinokawa, Wakayama 640-0423

### 摘 要

和歌山県の作型における需要期（年末～翌年春の彼岸）の収穫本数の増加を目的とし、低温要求性が異なる和歌山県オリジナルのスターチス・シヌアータ数品種を用いて、フラスコ苗（無菌状態の発根培養苗）の低温処理温度や期間およびポット苗冷房育苗における昼温が収穫本数に及ぼす影響を検討した。なお、本研究では20℃で組織培養されたフラスコ苗を用いた。

1. 昼温20℃(6:00～20:00)/夜温15℃(20:00～6:00)で約50日間冷房育苗して9月に定植すると、品種の低温要求性にかかわらず慣行の昼温25℃/夜温15℃で冷房育苗するよりも10～12月の収穫本数が株あたり2～3本程度増加することが明らかとなった。
2. フラスコ苗に適する低温処理条件は、温度が2～5℃で、期間が低温要求性の高い品種が30日間、低温要求性の中程度～低い品種が15日間であることがわかった。
3. フラスコ苗を2℃で15日間低温処理を行った後、昼温20℃/夜温15℃で冷房育苗すると、品種の低温要求性にかかわらず需要期の収穫本数が最も増加し、無処理よりも株あたり3～6本程度増加することが明らかとなった。